函館市主要小売物価

（9月15日現在）

函館商工会議所調査課

品目	単位	本月価格	指数（昭和40年=100）	前月比
総平均（202品目）			114.9	99.9
食料品（95品目）			121.5	100.5
穀類（5品目）			137.9	100.1
うるち米(非配給)	1kg	170.00	140.5	
あずき	〃	181.50	136.0	
粉、粉製品（4品目）	100g	27.00	80.2	108.0
小麦粉	1kg	65.00	104.4	100.0
野菜（15品目）			97.7	
甘しょ	〃	87.50	70.6	76.7
ばれいしょ	〃	33.13	125.4	87.5
ほうれん草	〃	22.50	108.6	113.6
はくさい	〃	97.50	48.1	30.7
ねぎ	〃	30.00	116.1	71.3
大根	〃	75.75	57.8	51.4
玉ねぎ	〃	30.63	66.7	64.9
にんじん	〃	31.88	76.8	151.9
きゅうり	〃	93.75	56.1	123.4
果物（10品目）		70.00	114.5	51.1
バナナ	1kg	220.00	45.8	129.2
夏みかん	〃		127.9	129.0
りんご（紅玉）	〃		69.9	84.6
鮮魚介（11品目）		100.00	144.6	
あまぐろ	100g	93.33	137.3	100.4
あじ	〃	16.25	114.4	91.8
まがれい	〃	37.50	135.6	81.3
さけ（切り身）	〃	80.00	180.1	109.8
さば	〃	8.75	159.7	
さんま	〃	10.00	86.0	128.1
いか	〃	13.83	73.6	60.0
乾物（5品目）			98.9	93.3
たらこ	100g	90.00	97.4	100.0
干のり	1帖(10枚)	60.00	87.1	
畜産食品（9品目）			111.8	
牛肉(ロース中)	100g	200.00	140.6	99.3
ぶた肉（中）	〃	90.00	264.4	
鶏卵	〃	75.00	132.5	
調味料（9品目）			112.3	
しょう油(2ℓ)	1本	220.00	108.2	100.0
みそ	1kg	110.00	115.6	
砂糖		140.00	113.6	
繊維品（28品目）			108.5	
繊物（10品目）			105.5	99.2
ちりめん	1反	9,200	102.6	98.2
洋服類（8品目）			109.9	
男子背広服(一)	1着		108.2	100.0
男子背広服(合物)		16,500	113.9	
男子ズボン(一)	1本			
男子生徒服(上下)	1着	4,650	124.4	

本所業務概要報告

昭和44年8月

事項別分類	日付	件名
議員総会	11	第4回臨時議員総会
常議員会	11	第16回常議員会
委員会	23	函館圏企業誘致特別委員会
	25	簿記学校運営委員会
正副会頭会議	5	第98回正副会頭会議
	15	〃
	25	第100回 〃
会議	1	全道商工会議所総務担当者会議（本所）
	3	下北、函館連絡協議会（グランドホテル）
	4	〃 （青年センター）
	16	函館空港整備促進連絡協議会
諸会議出席	5	亀井勝一郎文学碑建立期成会正副会長会議
	7	商取引懇談会区委会
	14	函館圏総合開発審議会（社会開発委）
	〃	拓製ビル入居者懇談会
	〃	青色申告会婦人部会（工場見学）
	15	函館圏総合開発審議会（建設委）
	19	広域商業診断事後指導研究会
	〃	五稜郭戦史打合会
	20	広域商業診断事後指導研究会
	〃	函館圏総合開発審議会（経済委）
	22	青色申告会総会
	27	観光開発シンポジウム（東商）
	〃	北海道法人会大会（室蘭）
建議・陳情	14	企業誘致、横津スカイラインの実現促進について市長、市議会議長へ要望書提出
講習・催物	17	第22回函館地区珠算競技大会
	21	移動金融相談室開設（松川町会館）
相談・診断	14	港湾振興会（魚市場）
	20	函館地区電気利用協議会総会
	22	道立青年の家運営協議会
	〃	青函トンネル懇談会（青森、函館）
	25	港湾振興会総会
	28	貨物協会支部長会議（層雲峡）
共催または外郭団体事業		発信 54　受信 182
		産業会館 40　別館 21
	1	木製品新作発表会（新川小学校）
	〃2	開港111年記念進まつり（1日～5日）
	〃6	函館建具組合30周年記念式典
	7	いか大漁祈願祭（函館八幡宮）
	7	旭川商工会議所創立50周年記念式典（旭川）
	10	海上自衛隊大湊総監歓迎懇談会
	11	内田海上幕僚長、平田防衛大学教授らと懇談
	〃13	多久美NHK札幌中央放送局長新任披露宴
	14	ハーバー独鈴事追悼式
	〃18	旭川市の実験買物公園視察
	20	国体軟式野球函館地区大会
	22	道南シューズ新社屋落成披露
	26	古伏脇清二本所議員告別式
	〃29	紬業銀行函館支店閉鎖パーティ
文書		議員会視察ゴルフ大会
貸室		本所会計監査
慶弔その他		駐日アメリカ大使歓迎夕食会
		紬三喜屋新社屋落成披露

金融 1	税務 7	経理 13	
経営 10	労働 15	その他 1	
		計 47	

企業を育て
地域を伸ばす
商工会議所

函館商工会議所ニュース

発行所
函館市若松町15番7－61号
電話代表（0138）23－1181
函館商工会議所
編集発行人　高間　勉

合併は一年以内が適当

函館圏総合開発計画推進の大胆提案として注目されている函館市、亀田町双方を学問的立場から究明してもらおうと、本会議所と函館青年会議所とが、この三月函館大学に調査を依頼した同問題は、学の北海道産業開発研究所で調査を進めていたが、その結果をまとめ、函館市と亀田町双方の中心となった『広域経済圏もう活況の効果』と題する『総論』と『各論』の二部にわけて発表、十月二十二日、同研究所主任の和泉教授が本会議所でその概要を説明した。そしてこんどの調査によって『合併は当然』とする結論が出された。この結論をえて本会議所は、さらに関係各機関と調整し、同大学の研究グループ、学の北海道産業開発研究所、函館青年会議所とが、この問題の基本的な方針どうり合併推進の方向を決定した。

函館と亀田

賛成が絶対多数

マイナス面は調整可能

函館大学調査

▽函館市の住民意識

◇合併の賛否「合併したほうがよい」と答えたものが八〇・二％を占め反対は わずかに二・一％そして「わからない」が一七・八％。

◇合併の時期「出来るだけ早く一年以内が必要」と答えたものが五八・四％「もう少し機運が高まってから」が四一・六％、「しかし絶数では二年以内としたものが八〇％を占めた。

◇合併の理由「大規模な住宅団地の造成や工場の進出が促進され三〇万都市の発展が期待される」が四六・九％「住みよい暮しやすい町づくりには合併が合理的」というのが三・九％「地不足が解消できるから」との答えもあった。

◇合併反対者の理由「合併しても市の財政は一年以内に合理化されるから」が八〇％「合併しても地域住民の総意によって」が六五・二％で「もう少し機運の高まるのを待ってからでも遅くない」が三・二％「合併しても地域住民の意見が強いから」がともに三・二％であった。

▽亀田町の住民意識

◇合併の賛否「合併賛成」が七八・四％に達し函館市の八〇・二％と同じくらいで反対は一・〇・三％、函館市の二・一％をはるかに上回っている。「わからない」が一・三％で「函館市の一七・八％より少なく亀田町民の合併に対する高い関心度を示している。

◇合併の時期「一年以内がよい」が六五・二％で「もう少し機運の高まるのを待ってから」が三・二％で「函館市より早期合併の実現を強く望んでいるという。

◇合併の理由「道路や下水など生産環境施設の整備がおくれているところが多く、五一・二％「住みよい暮しやすい町づくりのため」とする。

◇生活共同体化「函館市と亀田町との四九・三％が昭和三十五年ごろから著しく変化し、現在では全く経済的社会的に一体化、事実同一生活圏を形成している。現在ただちに合併しても同一行政区域となっても区域の経済的発展が直ちにもたらされたいのはそのためである。

▽急速な都市化による亀田町産業の影響

◇亀田農業の都市化「第一次合併問題の当時、反対の最大理由であった農林行政の後退化の心配は現在も考えられるであろうが、亀田農業自体が農地から宅地への転換、労働人口の流出などのため大きくかわり函館市プラス亀田市地域の依存度を高めている現在、亀田農林行政は独立であるいは函館市と対立分離しない形で行なわれればすばらしい。むしろ、農林行政は合併によって初めて適合したものとなるであろう。

合併して同行政区域を一体化した都市計画、都市行政を構想し、その中に亀田農林業を位置づけ、そして、亀田農業自体が地価暴騰による魅力に抗しきれず農地の宅地転化が無秩序的におこり資産家することになろう。

◇総括「函館市経済界は長期的にみて、合併により重の増大ということである。

大の課題であるからである。函館市の経済発展は港湾の画期的発展と臨海工業地帯の造成および観光開発などの最大要因であるからである。

一の道となるからである。

函館市の経済発展は港湾の画期的発展と臨海工業地帯の造成および観光開発などの最大要因であるからである。

大である。函館市と生活圏を同じくする亀田町との合併さえできないようでは函館市の体質改善はできない。

合併して函館市は、都市計画の必要性＝現在の周地域とは何よりも必要なことは商店街、工場街、住宅地、農地、山林を調整して周地域を包含する街路を計画的に調整統一させる都市計画の策定である。

そのためには何よりも、まず港湾のセンターランド開発と近隣町村との提携が重大である。函館市、亀田町のような二体化した生活共同体のケースでは地方自治体法に規定するような連係組織を新しく作る必要はない。合併することによって都市計画を改めて作成し、ここ数年の秩序的スプロール現象を調整することが第一の急務であろう。むしろ遅きに失しているともいえる。

このほか問題点として②公共的行政投資の不足③道路の未整備④上水道の不足⑤文教施設の立ちおくれ⑥通信施設の不足などが指摘される。

◇総括「亀田町の社会環境は一言でいえば人口、世帯増に追いついていない。しかし、これは決して亀田町行政当局の怠慢を意味しない。総括的にいって四十三年度の一般会計当り行政費は函館市二七、四二〇円、亀田町一四、四二六円という数字のとおり亀田町の人口に比して行政施策の貧弱なことを物語っている。

この意味で亀田町民の主体はすでに函館市からの転職者によってしめられているとすれば地方自治体としての亀田町民の主体をなっているのは、これであり、数年前の函館市民としての彼ら亀田町民の貧弱さを非難し、函館市の合併を求めるのは当然であり、それが亀田町の総意となって表現されるものと予想される。

▽結論

マイナス面は行政能力の範囲内で分調整可能であり、しかも短期性格のものが多いのに反しプラス面は短期的のみならず長期発展的である。

すなわち、経済的には函館圏産業の発展と総合開発の推進を中心とする長期的性格のものであり、その受益は函館市民、亀田町民である。社会的には亀田町生活環境の当面の改善に役立つ短期的直接的性格のものであるとともに、それは当然行なうべきものであるとも考えられる。第三期北海道総合開発計画に間に合う時期を考えるならば、合併の時期は一年以内が適当である。これは同地域住民の絶対多数の希望するところである。

支庁長に聞く

本所で懇談会

川尻渡島支庁長を囲んで本会議所の各部会長、委員長との懇談会は十一月十日午前十時から本所で開かれた。

同支庁長は道南地方の開発進捗のおくれの要因として①道路のおくれの要因として十六年から始めて今日なお未完成である大野かんばい事業の遅延などをあげ、その現況と見通しの概要を説明、またこれからの予定事業として①農免道路（ミルク・ロード）の建設計画②噴火湾の養殖事業計画③駒ケ岳山麓地帯の高級生果物栽培センター建設計画などについて支庁当局の構想を調査研究中であるとの横津スカイ・ラインの建設や函館山ロープウェイの建設などについても支庁の考え方を語った。

私見

栗よりもクルミを

田中誠一郎

政府が米増産を打ち出し、米を作れ！の号令がかかると忽ち我れもわれもと米作りに走り、米作地帯はもちろん、米作り海道の馬地の北限は北上し続け、北海道の馬地の北限は北上し続、米作りに転換する。この奇現象は現行の食管制度や奨励金制度などの関係もあって無定見とか、自主性がないとかいって責められるこの問題視せるべきものであろう。以前のことであるが、私は寒地における米作りと疑問を抱き寒地の米もと米作りに走り、米作りに対し反対論を書いたことがあったが、門外漢の素人論と見て専門家筋からは物ならなかった。

◇

別に渡島支庁の方針に横槍を突き、取立てて一〇〇パーセント反対するものではないが、私は清酒の燗で冷酒の一杯とはいえないが、ご考に供したいの気候風土などと穀の条件を考えてみて、栗よりもクルミの方が栽培に適して栄養価が高く、利用範囲も広範にわたり、その上、三、国内需要の漸増は統計によって確認される。すなわち、クルミの輸入量は昭和三十四年にはゼロであったが同三十八年には四一トン（一億八九百万円）とわずか四年間に激増している。

◇

一方、栗については農林省蚕糸園芸局の昭和四十一年度調査による全国生産高二、三九六トンであり、長野県の成園反収収穫高は五六、九〇〇円ということ、米一反当り収入と比較すれば肥料、労働力など勘案して米よりも有利なのように考えられる。

今や貿易の自由化等一層より農林行政の総合的再検討と再編成が要請されている時、前事の徹を踏まないよう望む。独り私の杞憂とは思わないのである。

（44・10・28）

動静

田中会頭10月7日～8日札幌市へ（同）7日中帰京11月7日～8日青森市へ（青函商工会議所連合懇談会）

10月7日～8日札幌市へ（北海道商工会議所連合会正副会長会議）

10月8日～9日東京へ（日商常議員会、各委員会）同11月3日～4日札幌市へ（北海道商工会議所連合会正副会長会議）

11月7日～8日青森市へ（青函商工会議所連合懇談会）

11月14日～16日東京へ（日商常議員会、各委員会）同11月3日～4日札幌市へ（北海道商工会議所連合会正副会長会議）

11月7日～8日青森市へ（青函商工会議所連合懇談会）

被表彰二九一人

勤続の優良商工従業員

ことしで十一回目を迎えた本会議所の優良商工従業員表彰式は十月二十三日拓銀ビル8階ホールで行なわれ、勤続十年以上の二百九十一人に表彰状と記念品が贈られた。表彰をうけた人は勤続四十五年の長岡静華さん（家具）ほか三十年以上二人、三十年以上二人、二十年以上三百二十人、合計二百九十一人。

勤続十年以上には一人一人田中会頭から表彰状が手渡され、『これから表彰状を祝辞がんばって下さい』と表じて謝辞を述べた。祝辞をうけた人は次のとおりである。

▽勤続四十年以上　長岡静華（函館商工会議所）

▽勤続三十年以上　西村定雄（若松映画店）高橋太郎（日本サルヴェージ函館支店）西村公江（株二森屋）田原太助（日本漁網船具函館営業所）

▽同三十年以上　西村定雄（若松映画店）高橋太郎（日本サルヴェージ函館支店）西村公江（株二森屋）田原太助（日本漁網船具函館営業所）

▽同二十年以上　吉田賀雄（日本産業機械）高橋孝一（同）野村松雄（同）山本省一（同）熊谷辰男（納谷工業所）

祝辞を述べる田中会頭

青年と経営

日本青年会議所
会頭　牛尾治朗

企業の社会的役割

どんな企業であっても、そこには必然的社会的役割が伴なわなければならない。企業は五倍の生産性を上げるとこの士台を現代の企業人はすべて明確に認ばなければなる利潤の追求にすぎないのなら、経営者はやがて実に割の悪い役割ではかこれをどのように受けとめるかの問題である。

にその企業の経営観の士台が形成されると思う。われわれは自由主義社会の中で経営を行なっている。これをまず正確に認識しなければなるまい。なぜかなければ、社会主義社会の経済のエネルギーでうむことなく活動のスペキュレーションは政府の掌中にあり、自由主義社会の経済活動は個々の企業人の経営努力の集積によって支えられているという明解な事実である。

自由主義社会の繁栄をもたらすものは、そこに活動の場をもつ企業人の貢献であるといえる。

いま二十一世紀の企業を夢みることは不可能だと考えている。中小企業の経営者がそんなことを考えるものかという向きもあろうが、企業の位置づけ、これを経営とするなら、企業の経営を経営とすることができるよう、経営者の資質、組織と運営を要求する。

結果として当然利潤が生れてくる。蓋然性のあるものである。

運営という、教科書にでもせたいという会社利益を生産できずに、名例も少なくない。それは経営者の社会的使命観の欠如、つまり経営者の資質の不在、もしくは マジ・パワーに対するもの効率の高いものを求めるのだから……。

組織と運営を要求する。これを回路のつなげ方で何十万倍にも増幅する。電力はその効率のよい小さな力で大きな力を生ずるのと同じ回路をとるのようにとるかが、企業人としての役割であろう。組織はたとえ個人の善意改善になろうとも、効率を高めるような強力な前提があれば、社員はこれを是認するであろう。それを対する柔軟こそ企業の若さを持ち続け得るものであろうと思う。

という努力ではない。これが企業の思想というものではなかろうか。

自分の会社が組織という、明日に開いつつ力と、これをどのように、企業に加ませるかということで、緩慢せしめようとの、まず経営理論の不在、もしくはマジ・パワーに対するもの効率の高いものかどうかあるいは、自分の会社が

家印と称される疑似記号に就いて

（上）

バッシル・ホール・チャンバレン
訳者　馬場脩

本稿は1886年（明治19年）10月13日、亜細亜協会において行なわれた英人バッシル・ホール・チャンバレン氏の講演全文を馬場脩氏が北海道100年を記念し、昨年10月13日これを邦訳し、元市立函館図書館長故岡田健蔵先生の霊前に捧げたものである。偶々ことし8月、馬場先生が郷土函館を訪ねられた際に本紙掲載について先生の了承を得た。明治期における函館の有名商店の家印（ヤジルシ）が外人によって調査研究され、海外にひろく紹介されていたことは郷土史研究の観点からも貴重な文献といえる。

CHAMBERLAIN : ON THE QUASI-CHARACTERS CALLED "YA-JIRUSHI." 51

TABLE I.—LIST OF CHIEF IDEOGRAPHIC COMPONENTS OF HOUSE-SIGNS.

＝本訳文を元市立函館図書館長故岡田健蔵氏の霊前に捧ぐ＝

片仮名が面倒で、平仮名が更らに厄介で漢字はとうて一駄目だとする人々にとって、多少の注目を惹く筆に綴った。東海の小島の思い出からの一節を刻んだ偏えに地元の皆さんは申すまでもなく、全国的な問題について、本京の住民等に非常になじみの深い風屋、大風屋、土屋、大和屋のような家名は通用されていない。これにも応しかねるのでもあるまい。問題の「印」即ち「疑似記号」は通常「ヤジルシ」即ち「家印」と称されている。

此国の戒規掟に例えば、つく物の中にあるので、本理由が、日本の風物調査に代って各自は看板や、家紋に書かれている各自の「ヤジルシ」がある。この家印によって、その商店が常に知られているし、また話題にのぼっているものである。家印の本質は次の図表で解るだろう。

此の二つの図表の比較によってみられるように此事のヤジルシの構成要素は分類上、二種にあることを示している。此事は幾分仮名文字と一般に使われている漢字から借用したものと幾分時折考案された粗雑な記号から成っている。このようなものの中にあるのは、此使用は比較的に限られている。イエナ即ち「家名」は採用されたり、また随意になくてもすまされる余分な「ヤジルシ」をありわしている。

然し北方は、特に蝦夷地では「ヤジルシ」は特に非常に人目をひいている。此所の商店や旅館等は私共東京の住民等に非常になじみの深い風屋、大風屋、土屋、大和屋のような家名は通用されていない。これにも応しかねるのでもあるまい。問題の「印」即ち「疑似記号」は通常「ヤジルシ」即ち「家印」と称されている。

無学者にもわかる

単調な東洋人の表現

片仮名が面倒で、平仮名が更らに厄介で漢字はとうて一駄目だとする人々にとって、多少の注目を惹く筆に綴った。東海の小島の思い出からの一節を刻んだ偏えに地元の皆さんは申すまでもなく、全国的な問題について、本京の住民等に非常になじみの深い風屋、大風屋、土屋、大和屋のような家名は通用されていない。これにも応しかねるのでもあるまい。問題の「印」即ち「疑似記号」は通常「ヤジルシ」即ち「家印」と称されている。

此国の戒規掟に例えば、

としたら、日本人が表現するような●より寧ろ必らずや■または★書いたのであろう。日本人の心は星の円い形に打たれ、私共の心は星の輝く光線にとらわれている。こんな小さな事柄にその相違を見らわしている一前者は単調で後者は幽雅で写象的でもある。

本題に戻れば、此事の粗雑な表意的記号に関する主要な関心は、如何にして記号が何等の意識ある考案もなく粗雑な書き方に発展しただろうかを示す点にある。私共は、やはり記号の中に漢字もそうであることを知っているように如何に斯る体系が必らず風習や習慣にふれる物の断片を含むものであったのを知るのである。いわば、かように習字の一車」の意味で構成されている「軍」なる文字はたとえ中国の武士共が車工の指示の書かれた記号を「ヤジルシ」は明に「イゲタ」井戸」は日本の井戸の周りの木製の四角なる枠である。「サンギ」と呼ばれ☰と書かれる三本木（三と読まれる）は周柔統の易棒である。▌「ボウ」は棒で、㊥「クワ」は馬勒（ハクロ）である。✕の代り✕「リュウゴ」（糸練車の巻取り棒の上の小さな車輪で、この上を紐が通る）扇の二つ記号は注目を要する的確な表現性の中に非常に多い。

常議員に大井安磨氏を補選

本会議所第五回臨時議員総会は十一月十一日午後一時半から本所で開きま（二時半）閉会した。田中会頭あいさつの後と議事録者人について議事録者人に小柏、荻野両議員指名し、高間専務理事から十月中の本所業務概要を説明、本会議所婦人会などの設立、古伏協清二議員の死亡による二号議員の補充は函館特産食品工業協同組合（代表者宮川文太郎理事）が選ばれたことなど報告された。ついて